

まほろん

通信

Shirakawa since 2001



あの家に・・・
縄文人はいます。

◇特集◇ 植物利用に込められた暮らしの知恵

- シリーズまほろんのヒミツ6■
まほろんショップ“いちおし”！之巻
- シリーズまほろん回顧録2■
まほろん「火おこし」ものがたり
- コラム■
技術（わざ）の記録と復元について

植物利用に 込められた 暮らしの知恵

8月27日(日)まで開催中の企画展「編む・組む・削る～植物利用の技術史～」を分かりやすく解説します。

文：國井秀紀（専門学芸員）

私たちの身の周りにある道具には、かごやざる、椀などの容器、衣服や敷物といったように、植物を材料につくられたものがたくさんあります。

非常に古い時代から、人々は生活のためにさまざまな道具を生み出してきましたが、身近な森で手に入れることのできる植物の中には、その茎や蔓^{つる}、樹皮などが丈夫で加工しやすく、容器や衣服、敷物などの素材^{しきもの}に適したものがありませんでした。人々はそうした植物の中から、生活の中のさまざまな必要に応じて、道具の材料を選び出してきました。その経験は、何百年、何千年もの間、人々の「暮らしの知恵」として、現代に受け継がれてきたのです。

編み組技術について

生活の道具の中でも、かごやざるなど、草や竹、蔓、樹皮などを編んでつくられるものを、編み組製品といいます。最近の研究で、編み組の技術は、土器の表面に残る痕跡などから、日本では少なくとも、縄文時代草創期^{そうそうき}（約13,000年前）にまで遡^{さかのぼ}ることが確認されています。

編み組技術は、単に編み方の技術という以上に、素材となる植物を採集し、そこから良質な素材を取り出して、加工する工程が、とても重要です。かご・ざるも、目的に応じて様々な形状があり、それによって編み方や、素材となる植物の種類も変わります。人々は、そうした植物に関する多様な知識と知恵を、経験的に受け継いできたのです。

また、遺跡の発掘で見つかる土器の底部に残る編み組の痕跡も、その当時の編み組技術を知る重要な手がかりになります。

木製品の加工技術について

伐採した木材を木取りして、ヤリガンナなどの鉄製の加工用具を使い、削って加工する技術は、県内では、弥生時代以降の遺跡から出土した木製遺物や、木片などから確認できます。この技術も、やはり目的に合わせた木材の見極めが重要な役割を果たしています。加工用具も、つくる木製品の形状・大きさに応じて多様に発達していきます。

このように植物を利用して生活道具をつくる技術は、大量の工業製品が日常生活に行き渡った今日では、急速に失われており、技術を受け継ぐ人も少なくなっています。

6月24日から開催の企画展「編む・組む・削る—植物利用の技術史—」では、こうした技術に込められた先人たちの暮らしの知恵を、当館の収蔵資料や、福島県只見町・三島町などで作られた製品や素材などを通してご紹介します。



現代の編み組製品と植物素材

表紙の1冊

野外展示にある「縄文時代の家」は、約4,000年前（縄文時代中期）の集落跡である法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）の住居跡をモデルに復元されたものです。複式炉と呼ばれる炉も、発掘成果をもとに忠実に再現され、毎週1回火を焚いて、当時の暮らしの様子を再現しています（現在は土曜日の午前10時半から午後2時半まで）。縄文人の格好をしたスタッフに会えるかも知れませんよ。

まほろんのヒミツ6

まほろんショップ "いちおし" 之巻

まほろん「オリジナルグッズ」から隠れた名品を紹介！

文：佐藤貴司（ショップディレクター）

「まほろんオリジナル手ぬぐい」のご紹介

これから暑くなる季節にお勧めする、ショップ“いちおし”のグッズは「まほろんオリジナル手ぬぐい」です。ご覧いただいたとおり、見事な縄文土器が描かれています。モデルとなったのは、法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）から出土した国指定重要文化財の土器で、当館のスタッフがデザインしました。サイズは90×34cm、価格は500円（税込）と、お求めになりやすい価格です。

まほろんショップでは、そのほかにも^{そうぎよはい}双魚佩（南相馬市真野古墳群出土）ピンズや勾玉クッキーなど、まほろんならではの様々なオリジナルグッズ、多彩なアイテムを取り揃えています。ご来館の記念や、贈り物に、ぜひご

利用ください。また、最新の情報は下記のホームページからご覧いただけます。

まほろんミュージアムショップのホームページ

URL <http://www.mahoron.fcp.or.jp/shop/>



まほろんオリジナル手ぬぐい



法正尻遺跡の縄文土器



双魚佩ピンズ

コラム

『技術(わざ)の記録と復元について』

有形の文化財に対する民俗技術などの無形の文化財の保存について解説。

文：大山孝正（専門学芸員）

文化財には、有形の文化財に対して、無形の文化財と呼ばれる分野があります。

無形の文化財とは、人の行為によつて初めて形に現れる文化財のことです。例えば、地域で伝えられる祭りなどの風俗慣習、民俗芸能、生活や生産活動における「もづくり」などの民俗技術は、文化財保護法では、無形民俗文化財に分類されます。これらは、継承する個人や団体が、ある一連の行為を行うことで、初めて具体的に現れる文化財であり、無形の文化財に位置づけられます。

無形の文化財の最大の特徴は、映像や写真などで記録しなければ、目に見える形として残らないことです。また、継承する個人や地域社会をめぐる環境が変化し、継承が困難になると、中断・廃絶の可能性が高まります。

特に近年では、過疎化や少子高齢化、災害などの要因で、実際に継承が困難になり、途絶える例も

相次いでいます。そのため、今残るものは、映像記録の作成等の緊急の対策が求められています。

まほろんでは、このように失われゆく無形の文化財の保存のため、過去の映像等の記録から内容を再現し、復活・復元させるための取り組みを始めています。

その一つに、南相馬市の箕の製作技術があります。箕は、もみ殻などを選別する用具で、植物素材からつくられますが、近年はプラスチック製品が普及し、伝統的な製作技術が失われつつあります。東日本大震災等の影響もあり、継承が困難な状況ですが、幸い、震災以前に撮られた映像記録があり、まほろんでは、これを元に貴重な技術の再現に着手しました。

このほか、カゴやザル、桶や木地などの製作技術も、考古資料などの有形の文化財の調査・研究と密接に関連します。これらの技術の記録や復元も、今後の課題です。

まほろんでは、現代に残る民俗技術などの無形の文化財を残す取り組みを行うことで、まほろんが収蔵する考古資料とも合わせて、遠い過去から受け継がれてきた技術(わざ)の記録、保存に役立てられるように努力しています。

まほろん 「火おこし」 ものがたり

まほろんを代表する人気体験メニューの裏話！

文：今野 徹（(公財)福島県文化振興財団
遺跡調査部調査課副主幹）

「今までイベントの時にしかできなかった体験学習を、毎日やろう」というのが、まほろんの計画段階から掲げられた大方針でした。無謀にも思えたその計画の柱に据えられたのが、一つは前号で取り上げた「勾玉づくり」、もう一つは「火おこし体験」でした。

火おこしには、木と木をこすり合せ摩擦熱を利用したモミギリ、弓ギリ、舞ギリなどの方法があります。



開館1周年記念イベントでの
火おこし体験の様子（平成14年7月）

縄文時代には、すでにモミギリによる火おこしが行われていたようです。しかし、この方法で火をおこすには、慣れと腕力が必要なため、体験学習のおもな対象者を小学生に想定していたまほろんでは、舞ギリを採用しました。毎日の使用に耐えられるよう、火おこし道具の芯の部分は、ソケットに「替え芯」を挿すタイプのものを揃えました。火切り臼と呼ばれる切込みの入った板は、職員やボランティアが電動ノコギリなどを使って大量に作り、準備しました。

火おこし体験は開館当初、体験活動室内で試行したことがありました。しかし、予想を超える来館者が活動室に詰めかけ、同じ部屋で勾玉づくりを行っていたこともあり、煙と勾玉を削った粉で室内は白くモウモウと煙ってしまいました。「これはまずい」ということになり、火おこし体験は、今のように屋外にベニヤ板を敷いて実施することとし、現在に至っています。

様々な試行錯誤を繰り返しながらも、火おこしは、最後に炎が上がるというインパクトと達成感からか、勾玉作りと同様に今も人気が高く、開館から16年経った今でも、原則毎日体験することができます。

編集後記

前号から始まった「シリーズまほろん回顧録」。勾玉づくりに続き、開館以来の人気体験メニュー「火おこし」にまつわる裏話を、当時の担当職員に執筆して頂きました。今では当たり前のようになった火おこし体験ですが、16年前の苦労がしのべれます。職員のアイデアから次々に生まれる新しい体験メニューですが、こうして永く愛されるようになっていくことが、職員にとつての大きな目標です。

まほろん掲示板

- | | |
|---|---|
| 7/1 (土) 上映会・無形の文化財研修
「伝統技術を伝えるために」 | 8/11 (金) ~ 15 (火)
弓矢チャレンジ
・まほろんスケッチコンテスト |
| 7/9 (日) カラムシから布をつくろう① | 8/26 (土) 文化財講座
「縄文土器の年代と地域性」 |
| 7/15 (土) 第2回館長講演会 | 8/27 (日) カラムシから布をつくろう③ |
| 7/16 (日) 文化財講演会
「縄文時代の植物資源利用」
「奈良時代の木器生産遺跡」 | 9/9 (土) 文化財保護・活用専門研修
「木製品・金属製品の取り上げと保存」
文化財と関連科学研修
「文化財非破壊分析の手法」 |
| 7/23 (日) カラムシから布をつくろう② | 9/24 (日) 第3回まほろん森の塾 |
| 7/30 (日) まほろん夏まつり | 9/30 (土) 第3回館長講演会
指定文化財展「はにわ行進曲」開幕
(~ 11/26) |
| 8/2 (水) ~ 4 (金) 教職員等発掘調査体験研修 | 10/1 (日) 野外展示と植物の見学会 |
| 8/6 (日) 第2回まほろん森の塾 | |



★お気軽にお問い合わせください！

まほろん 通信 vol. 64

平成29年6月30日発行

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW及び夏休み期間中は開館します) / 国民の祝日の翌日 (土・日曜日に当たる場合は開館 / 年末年始 (12月28日~1月4日))
入館料 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

お問い合わせ



〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

